

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「私たちは地域に開かれた地域に愛されるグループホームを目指します」を理念とし、サービスを実施している		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ぬくもり・やさしさ・安心 そして地域とのふれあいを理念としている		大きく書にして、皆が見える玄関先やリビングに掲げている
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切に理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	地域の方々や家族とのとの交流の際には、楽しい出来事の報告・状況等を伝えている		地域の方々との交流の際には、家族の方も招待して一緒に触れ合っていきたい
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	なるべくホームの外への散歩を行い、近所の方に会った時には挨拶を忘れないようにしている		挨拶だけでなく、もっと会話の幅を広げていきたい
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	行事や活動があるときには必ず地域からの連絡があるため、なるべく参加できるように努めている		行事や活動の際には利用者の体調や状況を見極めながら、なるべく参加するように努める
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方が見学に来られた際は、色々な話をしながら輪を広げていく		見学に来られた時、その方の状況や悩み事を傾聴して、事業所として何かアドバイスが出来るように心がける

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎月のミーティングを実施し、質の良い介護を目指して意見交換を行いながら、運営者や職員がコミュニケーションをとり、少しずつ改善に取り組んでいる		職員一同、普段無意識に行っているケア業務を改めて見直す機会と心得て、毎年の評価の活用に取り組んでいる
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度会議を設けている。会議にて出た議題への意見や状況報告を現場でのケアに活かすようにしている		地域・事業所行事へのお誘いや、前回の会議であった議題への取り組みのモニタリング報告、最近の懸案事項を含む利用近況報告などを主に、二ヶ月に一度のペースで行っている
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	公の機関主催のケア向上の研修の案内などには出来る限り参加をするようにしている。		年に一度、町の福祉イベントに事業所として参加し、グループホームの日常を広く知っていただく機会を提供していただいている。また毎年の家族介護教室の講習依頼を受け、地域密着のケアサービスへの連携を図っている
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護・成年後見人制度の研修があるときは、必ず参加するようにしている。人権を重んじ、利用者の言動等を批判するような記録の書き方をしていないか、配慮するようにしている		ホーム長やケアマネージャーなど権利擁護や成年後見人制度への知識がある者が、機会があるごとに職員への説明をするようにしている
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常日頃から小さな何気ない変化でも、職員同士の申し送りや管理者への報告を怠らないように努めている。介護する側のストレスから虐待にならないように常に管理者や職員の間での声掛け、チームワークに努めている		ホーム長や管理者・職員で、日頃のケアや対応を通してさまざまな虐待についての話やミーティングの機会を設け、理解浸透を図るようにしている
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	出来る限り利用者や家族の方に満足ができるよう、十分納得ができるよう説明するように努めている。退所にいたる際には十分な話し合い、今後の対応についての相談などにも誠実に対応するように心がけている		契約前に、事前に契約書をお渡しし熟読をお願いした上で、口頭での説明と合わせて事業所として出来るサービス、出来かねるサービス、契約解除の際の注意事項などの理解を深めていただけるように努めている

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの細かな声掛けで利用者の思い(希望や不満)を読み取れるように取り組んでいる		自分の気持ちをうまく表出できない利用者には、特に言動から伝わる思いを汲み取るようにし、利用者本位の運営理念に活かせるよう一層努力をしていきたい
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	緊急時の電話連絡だけでなく、家族の来訪時には出来る限り利用者の日頃の生活の様子や病院受診結果を含む健康状態の報告などを細かく行うようにしている		毎月の利用料受領時に、毎月の個人預り金の出納明細を発行している。また、今までは玄関のコールボードに掲示していた事業所便りを、出納明細書・利用料受領書と併せて各家族にお渡しするようにしている
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関ホールに家族のための意見箱を設置している。また家族が来られたときには要望や苦情を表せるよう声掛けを行う		今年度、管理者が苦情対応の研修を受講。翌月のミーティングにて「苦情は宝」の考えを全職員に伝え、玄関ホールに「福祉サービス苦情解決制度のご案内」のポスターを掲示。今まで以上に要望・苦情が言いやすいように努めたい
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、合同ミーティングと各部所のミーティングを行い、職員の意見や提案を聞く機会を設けている		職員の異動や勤務体制の変動時には、事前に職員に意見を聞き、それを反映できるよう努めている。また、言葉にはし辛い不満や苦情が無いが、日頃からコミュニケーションをとり、解決できるように図りたい
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	ボランティアによるイベントや、外出を含むレクリエーション時に応じて職員勤務の変更を行い、十分な対応ができるよう心がけている		季節や天候に応じての利用者の楽しみや生活パターンを優先し、その時々話し合いによって勤務時間を融通したり人員を厚くする工夫をしている
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者とのコミュニケーションをとり、致し方ない異動や離職の後にも心配なく安心して過ごしていただけるよう配慮を行っている		基本的に顔なじみの職員の配置を行う事で、落ち着いた生活の援助を目指しているが、やむをえない異動等には出来る限り利用者に影響の少ない時期を選ぶようにし、利用者への声掛けや挨拶を行うなど異動前後のケアに大きな支障や変化が無いよう配慮する
5. 人材の育成と支援				
19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されている	職員採用にあたって、年齢・性別の制限はしていない。また、社員の仕事への思い、それ以外にも将来への希望などを摘み取る事が無いよう、日頃からのコミュニケーションを通じて把握・保証できるよう心がけている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
20	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ミーティング時に具体的なケアの実践例や同業者の昨今のニュースを通じて、職員全体の人権教育への意識の向上を目指している		人権を尊重する事の大切さ、個人情報保護について、職員に指導を行い、書類の管理にも注意を払うようにしている
21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験に応じた研修の参加を促している。研修に参加した職員は、ミーティングでその内容を報告するようにしている		会員制度の年数回の研修には出来る限り交代で多くの職員に受講してもらおう計画している。合同ミーティングで発表・報告をし、記録に残す事で、職員全体のスキルの向上を目指している
22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町主催の福祉イベントや家族介護教室に進んで参加し、地域の同業者と交流を持つようにしている		地域の方から入所や入院を含む介護に関する相談を受けた時は、状況に応じて病院や他のグループホームや施設に連絡を取り、協力できる体制にしている
23	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員同士で積み立てを行い、年に数回の懇親会を実施し、ストレス軽減とコミュニケーションを図っている		一日の勤務の中で気分転換できる休憩時間を、以前より確保できるようになった。常に変化していく利用者の状況に、ストレスの感じ方が個々に違うことを理解した上で、独りで抱え込まないチームケアを充実していきたい
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は一日数回現場に顔を出して、職員の勤務状況を把握し、個々の努力に対しても励ましやねぎらいの言葉をかけている		職員の向上心を維持できるように資格取得のための勤務調整などの支援をしたり、各職員の資質や個性に応じた職場の環境調整を図っている
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者の希望や不安等の思いを出来るだけ早く理解・把握して、信頼関係を築けるように心がける		利用初期は特に不安や疑問など強くなることを理解し、まずは落ち着いた環境で食べ物や趣味など共通の話題から安心できる声掛けを行い、答えやすい会話を徐々に重ねていくうちに馴染みの関係になるよう心がけている
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者が安心して暮らせる場所として家族が感じ取れるように、信頼関係を構築していきたい		入所以前のホーム見学時や事前の申し込み時から、現在家族がどんな事に困ってこの先どんな希望を持っているのかを出来るだけ把握し、疑問などには誠実に答えられるよう努力していきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	環境の変化による利用者の動向の変化や真情を本人・家族とあらかじめ予測し、出来る限り安心して生活の継続が支援できるよう努めている		相談・見学時に得た情報を事前に全職員でミーティングに上げ、利用開始を円滑に行えるように努めている
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	初めは職員が間に入って他の利用者とのコミュニケーションを図り、少しずつホームの雰囲気に馴染んでいただくようにしている。またご家族にも協力を得て、面会や一緒にの外出などを行うことで不安や寂寥感の減少を図っている		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	テレビの話題や料理などのたわいのない話や、病気に対する不安・家族に対する恋慕など、喜怒哀楽を一緒に感じられるように日頃からコミュニケーションを図っている		芸能・園芸・編み物・料理など、利用者個々の趣味や特技を活かして職員が学ぶ機会が多く見られる
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の方が来られたときは利用者の毎日の生活の様子などをお伝えし、家族からの意見なども伺うようにしている		本人や家族の希望や状況により、病院受診や買物などの外出を職員だけでなく家族の方にも協力して同行されることがある。
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時には利用者の日常生活での出来事をお話している。また日頃から利用者や家族の電話や手紙の支援を行っている。		自分で感情を表出できにくい利用者は、日頃接しているからこそ知りえる小さなエピソードや、言葉ではうまく表せない家族への想いを家族へ届けられるように努めている
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望に応じて知人への電話希望や手紙の発送を支援している		家族の協力を得て昔からの友人や親戚と外出や食事の機会を設けたり、電話や手紙にて親睦を深めるお手伝いを行っている
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	カラオケや園芸、買物など、共通の趣味を持つグループごとで楽しめるよう支援している		食事の席も利用者同士のコミュニケーション力や相性にに応じて職員を間に入れたり同席したりと工夫をしている
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	長期入院などによる退所時などは、了解を得て見舞いに伺うようにしている。また契約解除時に、病院を退院するなど何かあったときはお知らせいただくよう声掛けを行っている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>出来る限りは本人の希望や意向をかなえられるよう努めているが、無理がある場合はスタッフで話し合いをして対応している</p>	<p>日頃の言動などで利用者の真意を把握し、場合によっては家族や管理者・ホーム長を交えて話し合いの場を設けている</p>
36	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>病院からの看護サマリーや本人や家族から話を伺い、これまでの生活歴や環境の把握に努めている</p>	
37	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>現在のADL・IADLを正確に把握し、利用者の生活パターンに沿ったケアの支援に努めている</p>	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>毎月ケアプランを基にミーティングを行っている。ケアプラン作成時は必ず本人や家族の意向、現場介護スタッフの意見を出し活かすようにしている</p>	
39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>ケアプランの期間終了前に、ケアに対するモニタリングを行うようにしている。また病状の悪化や緊急入退院など期間終了以前の急変時には、改めて本人の現状に沿ったケアプランの作成を行うようにしている</p>	
40	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個別のケース記録に個々の生活状況を記入している。一時間毎の記入欄に書ききれない特記事項を書く欄も設け、細かい言動も記録に残すようにしている。</p>	<p>ユニット毎に朝と夕方、口頭と書面にて申し送りを行うようにし、記録では伝わらない利用者の小さな変化を共有できるようにしている</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院の送迎や個別の買い物の付き添い、ドライブなど、家族と連絡を取ったりホーム内でミーティングを行うなどして、臨機応変に利用者の安全できる環境の確保に努めている		利用者の体調の変化に応じて24時間体制で介護を実施したり、利用者や家族の状況に応じて予定日以外の病院受診を支援、努力するようにしている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	行事があるときは出来るだけ参加し、地域の付き合いを大切にしていきたい。		利用者の希望で最寄の図書館に出向き、本の借り入れの支援をしたり、近所の小学校の生徒達との親睦会を通じて、子供達を慈しむ気持ちを大切にしている
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	数ヶ月ごとに訪問理美容を活用し、利用者に喜ばれている。		地域の「徘徊ネットワーク」や「ふれあいフェスタ」などで日頃から交流を行い、居室に空きがあるかどうかなどの連絡などを行っている
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	一人ひとりのケアを考えて、公のネットワークサービスや後見人制度などが必要かと思える場合には、今の生活状況等を含めた相談や情報交換を行いながら協働していきたい		包括支援センターの研修などを活用して、職員の意識の向上に努めたい
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族の希望を大切に、希望のかかりつけ医の受診を支援している		利用者の心身を一番に理解している馴染みの病院を出来る限り継続して利用するようにしている。体調不良の時は、急変時に適切な処置、対応ができるように事前に主治医に相談したり家族にも報告を行うようにしている
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	まずは本人、家族の希望を一番に考慮し、認知症の医療にとっても理解のある医師に受診し、治療方針などの指示や相談を行っている		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	隣接の小規模多機能施設の看護職員に、利用者の健康管理や状態変化の事を密に相談したり、最新の医療情報を聴く等、ケアの向上に努めている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	なるべく病院に出向き、利用者の病状等を把握するようにしている。医師・看護師に話を伺う機会を確保、今後の治療方針や現状確認に努めている		
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者・家族の気持ちを考えながら、出来るだけ一番いい終末期の迎え方の方法を話し合うようにしている		入所時の重要項目として、終末期への対応は現在行っていない旨を説明しているが、症状が重篤化する前に主治医や家族と話し合いを重ね、日頃の健康管理や急変時の対応など事業所として出来る限りの支援を検討して、本人や家族が安心できるような心がけている
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	少しの状態の変化も見逃さないように、もし急変したときに的確に対応できるように、事前に主治医に相談し指示を仰いだり、不定期にミーティングを行うなど急変への準備を行っている		
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人の気持ちを尊重しながら相手の立場に立って、新しい場所でも安心して暮らせる様、心配りや情報提供に努めている		移り先の関係者各位には、今までのケアなどの情報をプライバシーに配慮しながら情報交換をしている。また、本人や家族、移り先の関係者に了解を得て馴染みの職員が訪問に伺うなど、急激な環境の変化からのダメージ軽減に努めている
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の人権の大切さを常に念頭に置くように心がけながら、ケース記録の記入や取り扱いなどを行うようにしている		ミーティングなど日頃から折に触れ、職員の言葉や態度が利用者や家族にとってどれくらい大きな影響力があるかを認識するよう心がけている。また処遇記録研修にも参加し、個人情報保護法の大切さと利用者一人ひとりの尊重の大切さを全職員に理解浸透するよう努めている
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の希望や心情、体調を考慮し、レクリエーションや外出の参加などの支援をしている		一人ひとりの個性を尊重し、利用者に応じて職員側から意見を伺ったり、言葉に出せない思いなどは表情を読み取り、本人のサービス選択の幅を広げていくように努めたい
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の心身の状態に合わせて、利用者本位の生活を過ごせるように支援している		入浴の日時や回数、休息や就寝時間などを、その人の生活パターンに応じてそれぞれ支援している

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	定期的に訪問の床屋を利用し、一人ひとりに合ったスタイルを保ち、服などは希望に沿った店へ買い物に出掛けている		朝、洗面・整容に介助がいる方は、蒸しタオルにて顔を清拭し、櫛で整髪を行うようにしている。理美容は、希望のお店を利用できるよう支援し、希望のお店が無い方は、数ヶ月に一度の訪問理美容サービスを取り入れている
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の健康や体調に合わせて、一緒に食事の準備や片づけを行い、園内の畑で取れた野菜等新鮮な食材を使った料理を、毎日皆で楽しく食べている		利用者に応じて食事の材料や調理方法を変えたり、食べ易い形態への工夫を行うようにしている。また、本人の意向を伺った上で、食事前の台拭きや、配膳・下膳などのお手伝いをお願いしている
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒・たばこを好む方はいないが、おやつや水分補給は糖分等を気にしつつ楽しめる様心がけている		糖分・油分をおさえつつ、美味しく楽しめるものを用意する様心がけている
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	トイレの場所がわかるよう大きく貼り紙をして、定期的に声掛けや誘導をしている		排泄のタイミングやオムツやりハビリアンツなどの適した介助用品を考慮し、気持ちのよい排泄から出来るだけ清潔を保持できるように努めている。排便は回数だけでなく状態も申し送りを行い、水分強化やラジオ体操・散歩などの適度の運動を行い、薬での強制的な排便の減少を目指している
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの体調に合わせて、希望を聞き、ゆっくりとした入浴で悩みや不安ごとなどを共に語り合い、心身ともにすっきり出来るようにしている		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	就寝の時間を一律にせず、時には皆でテレビを觀賞したり、早めに休む日があったりと、適当な時間内での個々の気分を尊重している		本人の希望を伺ったうえでラジオ体操や散歩を取り入れ、適度に体を動かしたり夕食後に歌を歌うなどして夜に気持ちよく良眠が保てるように努めている
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	花壇の花や畑の手入れ、食事の配膳や片付け、ラジオ体操など一人ひとりの価値をを活かし、且つ負担にならない毎日の日課を行う事で張りのある生活を過ごせるよう支援している		年に数回ボランティアによる演芸や踊りなどの慰問などを企画している

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の希望により、衣類やおやつ・化粧品等、一緒に買い物に出掛け、いつでも使えるようにしている		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候のいい日は園内のテラスや庭で過ごしたり、季節の花見や地域の行事等に出掛けている		天気の良い日のウッドデッキでの洗濯物干しや中庭にある畑への散歩も行っている
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節ごとの行事として、春や秋のお花見や外食ドライブを行っている		
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話のある事務所を常に開放していて、いつでも利用者が電話を借りに行けるようにしている		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	馴染みの方が訪問された時は大きな声で挨拶するようにし、リビング・居間のどちらでもゆっくり過ごしてもらえるように対応している		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ケアミーティングなどで話し、身体拘束は違法であり、自覚がないまま行ったり、安全のためだからという建前があると許されるという間違った認識がないように努めている		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけず、一人ひとりの生活パターンからわかる癖や傾向に注意し対応している		外出しそうな利用者にはさりげなく声をかけ、お茶を勧めたり音話や他の楽しみを提供している。家族にも協力を得て個別でドライブなどの外出に誘い気分転換を図っている。散歩も出来る限り自由に出来るよう、少し離れて見守りを行うようにしている
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	夕方、職員の数が増えてからは、防犯目的での玄関の施錠を行い、深夜帯は巡視をこまめに行っている		日中は他の業務の最中にもさりげなく所在確認を行い、その時々々の体調や心情、安全の把握に努めている。夜間は安眠を考慮して数時間ごとに巡回し、24時間利用者の安全に努めている

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	衣類や家具など、私物が多く収納できない利用者は、本人・家族と話し合って整理・管理を行うようにしている		ホームの中にある包丁などの刃物や洗剤などが、不用意に放置されたりしないように注意を払う。自分で洗濯や入浴をする利用者には、職員がさりげなく見守りを行うようにする
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒に繋がるような雑多な物は整理をするようにしている。また、散歩を通じて足腰の筋力維持の支援をしている。服薬については与薬介助時に必ず名前や与薬時間を声に出して確認するようにしている		誤薬や転倒等のヒヤリハットは必ず記録に残し、その時の勤務社員以外も危険事項を共有することで、同じような危険を防止できるように努めている
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	怪我に繋がるようなヒヤリハットや病状の急変時は、かかりつけの病院の医師の指示を受け、対応を行うようにしている		新しい職員も増えたので、改めて全職員が利用者の急変や事故発生時に対応できるよう、定期的な訓練を実施していきたい
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地元の消防署の協力の下、火災時の避難訓練、初期消火訓練を行っている		今後は夜間時の火災避難訓練や水害・地震の実施を検討していきたい
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	日頃の生活の様子や健康状態を含め、抑圧感のない、本人の残存機能を活かせる生活を支援したい方針を家族に話している		利用者のADLの低下を把握し、その都度起こりうるリスクを家族にもお話しするようにしている
78				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝食後には必ずバイタルチェックを行い、体調の変化がないか確認・申し送りを行う		日頃から一人ひとりの体調に配慮し、異変時・緊急対応時は全職員に口頭・記録にて情報を申し送りしている
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を何時でも見られるようファイルし、薬の変更時には申し送りノートにも記載し、全職員が必ず目を通すようにしている。効能を周知し、症状に応じては主治医に相談・指示の元、薬の減量や中止、頓服の使用を行っている		ミーティングでは、誤薬防止のためにどうしたら良いか話し合っている。処方箋の確認 一週間分の薬ファイルのセット確認 食事後の薬ボックスのセット確認 与薬時の声だし確認を行う事で誤薬のリスクを無くすように努めている
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	無理のない程度に体を動かせるように、ラジオ体操や中庭の散歩、畑の手入れなどを個々の気分や体調で日課となるよう支援している。また、野菜などの食物繊維を多く取り入れた食生活を心がけるようにしている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアを支援している。口のすすぎなど、最後までしっかり出来るよう付き添い・介助を行っている		利用者の口腔内で専門的なケアが必要なときは、行きつけの歯科や、無い時は訪問歯科受診を導入している
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は、毎食時・午前10時・午後3時・入浴後など、利用者の好みに応じて水分補給を行う。嚥下障害の利用者にはトミ補助やカテーテルチップによる水分補給に努めている		腎臓疾患や糖尿病など、食事に制限がある利用者には、出来る限り美味しく食事を食べていただけるよう、病院からのアドバイスや専門の料理本を参考にしながら献立を考えている
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	食事前や排泄後、外出からの帰園後は、必ずこまめに手洗いを実行している		毎年、全職員と利用者には了解を得てインフルエンザの予防接種を実施している
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は一回に多く買いためをせず、早めに使い切るようにしている。食器類は熱処理や消毒をこまめに行っている		近くに農協の直営所もあり常に新鮮な食材が手に入る環境であるため、生鮮食品などは必要以上に買いためせず、新しい物を使って調理提供するようにしている
82				
(1)居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は各ユニットごとにあり、靴の着脱を腰かけて行えるよう椅子を配し、車椅子もゆっくり稼働できる広さにしている		地域の方も来られるよう、日中は施錠せず開放するようにしている
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングから直接ウッドデッキや中庭につながり、利用者が手入れをされる季節の花々が年中途切れる事無く開花しているのを望む事ができる		居室によっては太陽光の調節にすだれやよしずを使い、季節の変化を味わえるよう工夫をしている

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの席は利用者の希望や行動パターンを考慮して、自然と落ち着く場所を提供するようにしている		車椅子を使う利用者の割合が大きくなった為、リビング内の職員や利用者の動線にも配慮が必要になった
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具・椅子・テレビなど本人や家族の好みに工夫しながら配置を行っている		利用者が居室にて、自宅に居るような落ち着いた雰囲気の中で過ごせるように考えていく
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	24時間換気システムにて居室の換気を行っている。また利用者に応じて冷暖房や窓の開閉にてこまめに温度調整に配慮している		各居室にも温・湿度計を設置し、定期的にチェックを行い、利用者により快適に過ごしていただけるようにする
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要に応じて居室内にも手すりを設置し、安全に歩きやすいようにしている。館内は基本バリアフリーになっており、車椅子でもスムーズに移動が可能である		利用者の行動パターンやADLを把握し、より安全に過ごせるようにスタッフ間の連携を密にしてい
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	花壇作りや野菜栽培に意欲的な方・簡単な計算問題が出来る方・食事時の配膳・下膳の手伝いが出来る方など、一人ひとりの残存機能や意欲を見逃さないように努めている		
89	建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ウッドデッキにはベンチが設置しており、利用者が日光浴を楽しめる様にしている。また庭の一角には畑があり、利用者が野菜を作られて収穫を楽しまれている		活動に介助が必要な車椅子の方にももっと楽しんでいただけるようウッドデッキや中庭でのティータイムや食事・散歩など、外の空気に触れる機会をもっと増やしていきたい

. サービスの成果に関する項目		
項 目	最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の
		利用者の2/3くらいの
		利用者の1/3くらいの
		ほとんど掴んでいない
91	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある
		数日に1回程度ある
		たまにある
		ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が
		利用者の2/3くらいが
		利用者の1/3くらいが
		ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が
		利用者の2/3くらいが
		利用者の1/3くらいが
		ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が
		利用者の2/3くらいが
		利用者の1/3くらいが
		ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が
		利用者の2/3くらいが
		利用者の1/3くらいが
		ほとんどいない
96	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が
		利用者の2/3くらいが
		利用者の1/3くらいが
		ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	ほぼ全ての家族と
		家族の2/3くらいと
		家族の1/3くらいと
		ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

一人ひとりが安心して楽しく生活できるような環境づくり
 個人個人の居間までの生活歴や病歴、心情等を踏まえたうえで無理が無いようにその人らしく生活できるようにケアプランを作成し、ホーム内でミーティング等を行い、直ぐ対応できるようにしている
 地域行事に参加したり、レクリエーション等に力を入れ実践している